# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します

合田 直弘

北半球の各国で人馬各部門のリーディングランキングが確定した中、北米の馬主ランキング賞金収得部門で首位に立ったケンとサラのラムジー夫妻が、今回の主役である。

収得した賞金は年間で1223万1045ドルに達したが、これは00年にフランク・ストロナーク氏が作った1113万3785ドルを上回る歴代レコード。2位のミッドウェストサラブレッズに5百万ドル以上の差をつけるという、桁違いの数字を叩き出してのリーディング獲得であった。

ラムジー夫妻の首位奪取が型破りなのは、積み上がった数字が破格な点だけではない。夫妻の服色を背負って賞金を収得した馬のほとんどが夫妻による生産馬であり、なおかつ、賞金の半ば以上をたった1頭の種牡馬の産駒で稼いだのだ。しかも、である。賞金の大半を芝のレースで収得するという、ダートがメイントラックの北米においては、まさしく異端のリーディングオーナー誕生であった。

最初に得た職は税官吏で、これには早々に見切りをつけた後、次に就職した地元の陸送会社で出世し役員の座に就いたことが、ケン・ラムジーにとって成功への礎となった。独立し不動産業を立ち上げた彼にとって、前職を通じて得た知識――、街のどこにどんな人たちが住み、どこに工場や倉庫があって、どこに空き地があってという、街の様子を細かく把握していたこと――が、新たな商売を成功させる上でおおいに役立ったのだ。ラムジー氏はその後、携帯電話の販売チェーンを立ち上げ、これが大きく成長したところで会社を売却し、巨万の富を得るにいたった。

ケンタッキー州東部のアーテマス出身で、子供の頃から競馬が大好きだったラムジー氏は、不動産業が軌道に乗り始めた69年に、かねてからの夢だった馬主となった。そして、ケンタッキー州ニコラスヴィル郊外にあるアルマハースト牧場を買収し、これをラムジー牧場と改称して念願だった生産拠点を持ったのは、携帯電話販売会社を4千万ドルで売却した94年のことだった。この時、初めて置いた数頭の繁殖牝馬の1頭が、91年生まれのキトゥンズファーストで、現役時代は下級条件で2勝したのみに終わったこの馬が、母となってラムジーに計り知れない恩恵をもたらすことになった。4番仔のキトゥンズジョイが、ターフクラシック、セクレタリアトSという2つのG1を含む7つのG1を制し、04年のエクリプス賞芝牡馬部門を受賞したのである。

ちなみに04年、ラムジー氏はブリーダーズCに3頭出しで臨み、残念ながら勝利は手にすることは出来なかったが、クラシックに出たロージズインメイとターフに出たキトゥンズジョイがいずれも2着に好走している。このうちロージズインメイは翌春にドバイWCを制しているから、この頃が馬主ラムジー氏にとって1度目の頂点だった。

そして、引退後にラムジー牧場で種牡馬入りしたキトゥンズジョイが、夫妻に至福の時をもたらすことになった。13年、夫妻が生産所有するキトゥンズジョイ産駒から、G1アーリントンミリオン勝ち馬リアルソリューション、G1ユナイテッドネイションSとG1ソードダンサーSを制したビッグブルーキトゥン、G1セクレタリアトS勝ち馬アドミラルキトゥン、G1ジャストアゲイムS勝ち馬ステファニーキトゥン、G1クイーンエリザベス2世CC勝ち馬キトゥンズダンプリングが出現。ラムジー夫妻はリーディングオーナーに、そしてキトゥンズジョイもまたターフサイヤーとしては異例の、北米リーディングサイヤーの座に登りつめたのである。

今年の4歳世代が種付けされた09年には2万ドルだったキトゥンズジョイの種付け料は14年、10万ドルとなることが既に発表されている。その09年、キトゥンズジョイが種付けした117頭の牝馬のうち、実に107頭がラムジー氏所有の繁殖牝馬だったから、まさしくラムジー氏が独力で作り上げたリーディングサイヤーが、キトゥンズジョイと言えそうである。